

ブックプレイス ムゲンダウ



～地域の図書館～

小規模型図書館の設計

用途 町立図書館、町立公園

設定 人口約3万人の町の公立図書館

敷地周辺は住宅地

蔵書数20万冊程度

延べ床面積 4539 m²

敷地面積 16553 m²

建築面積 2952 m²

駐車場台数 市民用87台/職員用21台



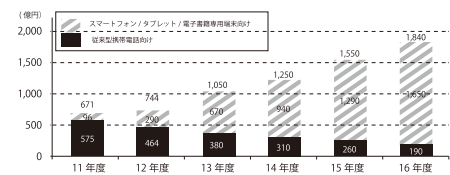
設計概要

小規模図書館（人口約3万人の公立図書館で蔵書数20万冊程度）の図書館の設計です。

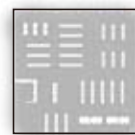
書籍の電子化が進む昨今、端末があれば情報を手に入れることができるようになり、自宅のパソコンから24時間利用できる電子図書館の登場から、検索に手間のかかる図書館へは行かない人が増えると言われていています。図書館の「本の倉庫」としての役割は薄れつつあり、逆に人々がのびのびと活動できる場所として魅力を持った図書館は、特に住民への図書サービスへ重点を置いている小規模図書館でより求められていくでしょう。

「知る」「楽しむ」「遊ぶ」「学ぶ」と本を味わうためのツールとして魅力のある紙の本を中心とし、現在使用されている日本図書分類法による図書の配置ではなく、新たに「住まい」「学び」「交流」の3つのテーマを核として日用視点で活用してもらえる図書館の空間をデザインします。

電子書籍増加の予測



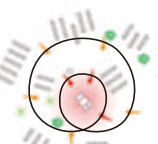
2012年度以降は予測値



大空間に本棚が並ぶ
均質な空間



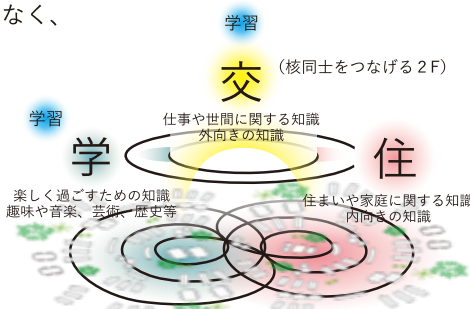
倉庫の枠をねじり
核（テーマ）を入れる



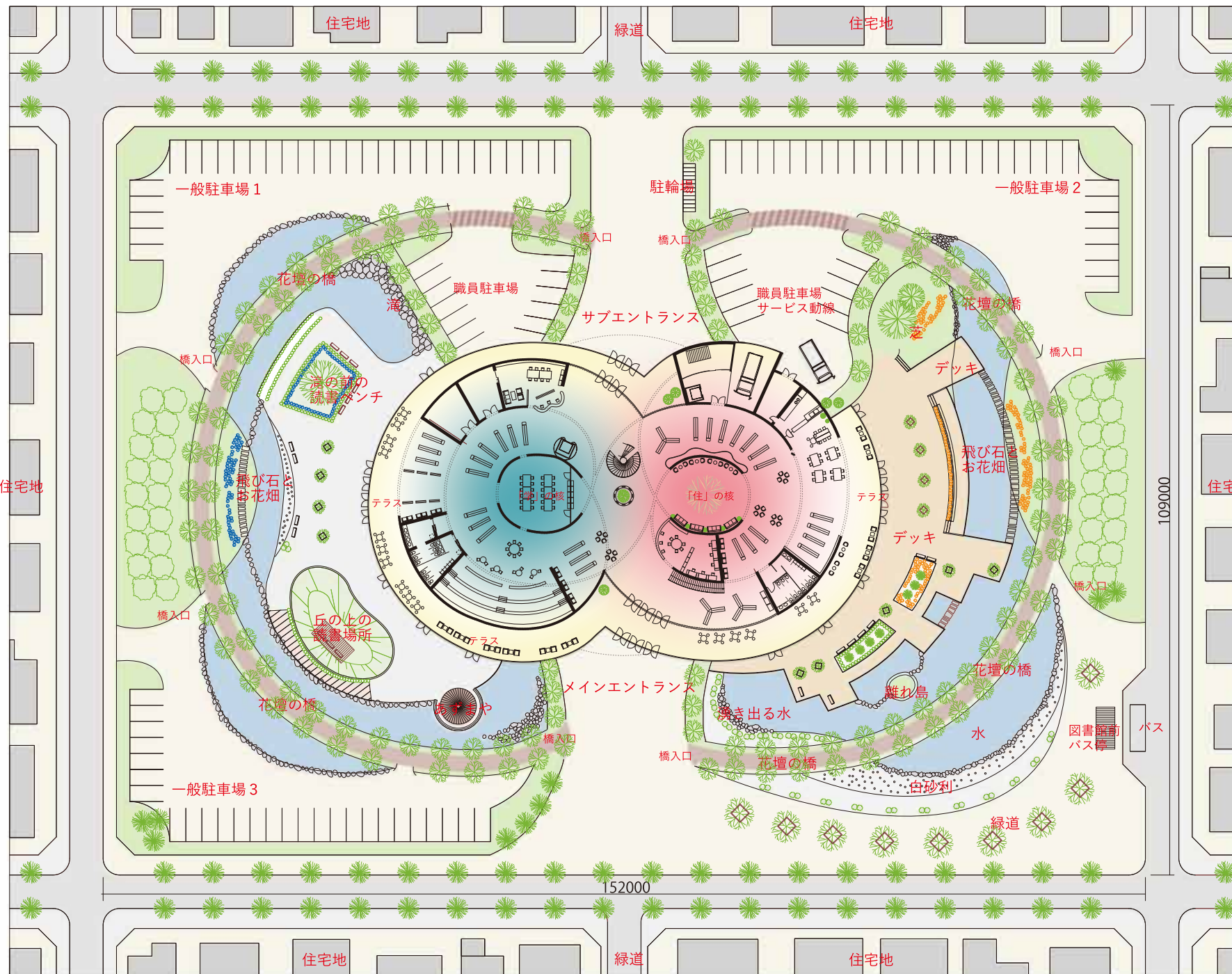
核を中心に
本棚が集まり周りを形作る



核同士が融合する



建物内の「核」から広がる庭には、外で読書を楽しむ仕掛けを設けている。



NonScale



配置図

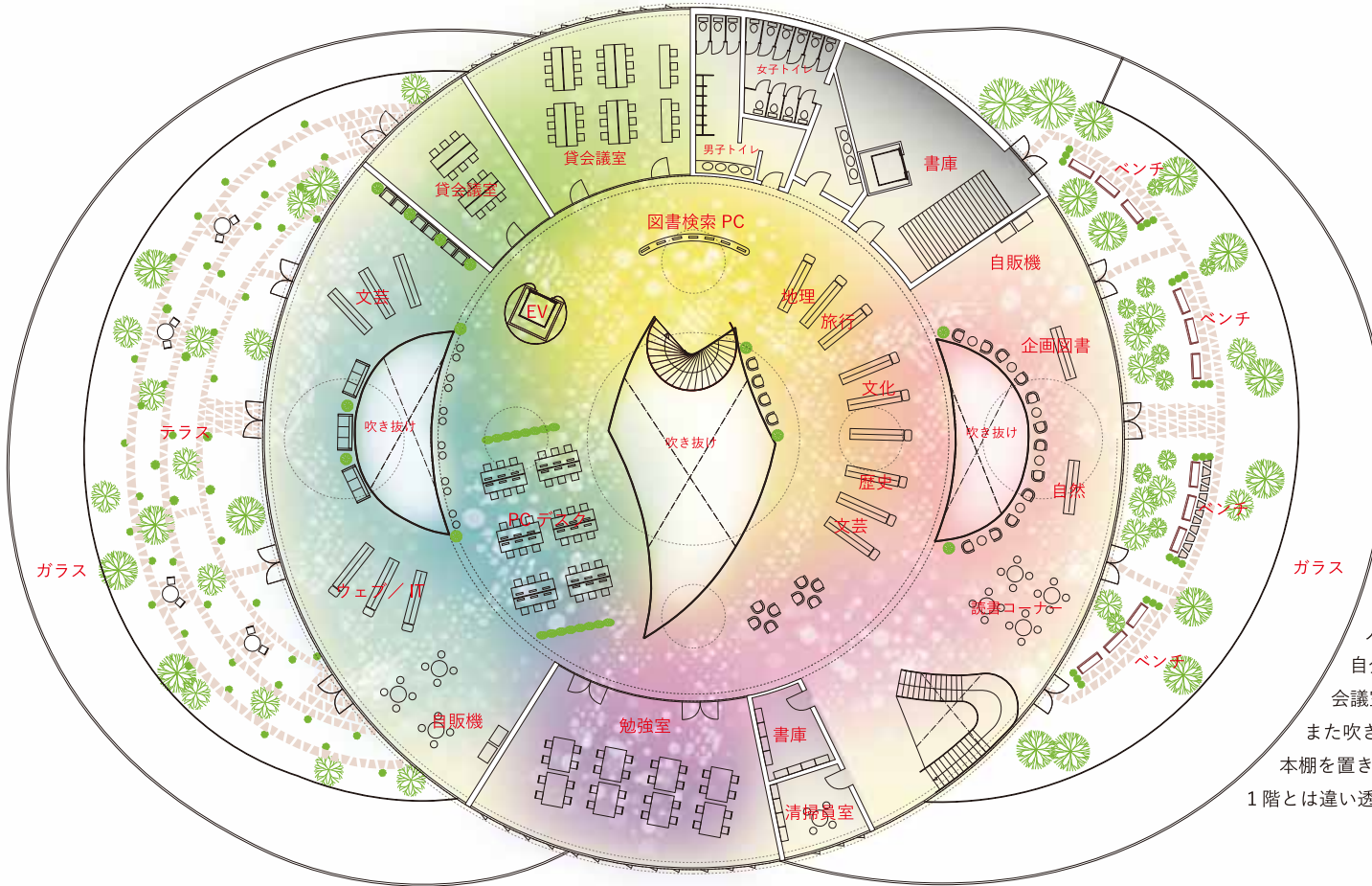
2F

Nonscale

0m 10m 20m

団体で活動できるスペースを充実させた2階は、1階の「知」を「考」→「動」へ移すためのツールや場所が備わっている。

建物の横の長さ 74560m 縦 46500m



貸会議室



読書テラス



PCデスク



読書テラス



吹き抜け部分

人は、他の人の活動風景をながめる事で
自分も感化されることがある。
会議室はガラス張りで中が見えるように、
また吹き抜けで出来た特徴的なフロアの形に沿って
本棚を置き壁を少なくする事で
1階とは違い透明感のある空間を作っている。



2階の本棚



透明感のある空間

左右の三日月型の吹き抜けは1階の各核の部分である
吹き抜けから核の特色が湧き出て2階へめぐるイメージで
建物の縦方向の奥行きと繋がりを作った。



2階の全体図

